

第1講座 地理I (世界地理)

P.6 ①<解答例>

1. (1) a 太平洋 b 大西洋 (2) 北緯40度 ③ 地点 イ 2. (1) a 漢(族) b メスチソ〔メスチーソ〕 (2) a ウ b ア (3) 山東省 ウ 甘肅省 イ (4) 大豆 イ 輸入量 Y 3. 2000年以降に加盟した国の多くは、一人当たりの国内総生産が低い。そのためEU内の経済格差が課題となっている。

<解説>

1. (1)地球上には、三つの大洋がある。面積の大きい順に、太平洋、大西洋、インド洋である。

1図はユーラシア大陸東部を、2図は南アメリカ大陸を、3図はユーラシア大陸西部を、それぞれ示している。1図と2図の両方にその一部が含まれている大洋は太平洋、2図と3図の両方にその一部が含まれている大洋は大西洋であることがわかる。

(2)北緯40度の緯線は、日本の岩手県と秋田県を通過し、ピョンヤン(朝鮮民主主義人民共和国の首都)、ペキン(中華人民共和国の首都)、アンカラ(トルコの首都)、ナポリ(イタリアの都市)、マドリッド(スペインの首都)、ニューヨークとワシントン(アメリカ合衆国の都市と首都)付近を通過する。3図は、おもにヨーロッパ州を示した地図なので、イタリア南部の都市ナポリとスペインの中心部に位置する首都マドリッド付近を通過している③が、北緯40度の緯線であると判断する。また、ある地点の、地球上で反対側に当たる地点を対称点とよぶ。緯度は、地表面の地点と地球の中心を結んだ線と赤道面との角度なので、北緯40度の対称点は南緯40度となる。東京が北緯40度の緯線Xよりも南に位置していること(実際は、北緯35～36度の間)から考えると、対称点は南緯40度未満となり、Aまたはイと判断する。経度は、イギリスを通る本初子午線を基準として、ある地点が東西にどれだけ離れているかを示す値なので、わが国の標準時子午線〔東経135度〕が通過する地点の対称点は、西経45度である。東京は、東経135度よりも東側に位置している(実際は、東経140度付近)ことから考えると、対称点は西経45度未満となり、イであることがわかる。

2. (1)A国は、中華人民共和国〔中国〕である。中国には、50を超える民族が存在するが、人口の約9割を占めるのが漢族〔漢民族〕で、漢族以外の民族を少数民族とよぶ。また、B国は、ブラジルである。南アメリカにおいて、先住民とヨーロッパ系の移民(特にスペイン系)との混血を、メスチソ〔メスチーソ〕とよぶ。

(2)C国は、イギリスである。イギリスは大陸西

岸の大西洋に位置する島国〔海洋国〕で、気候は温帯の西岸海洋性気候に属する。西岸海洋性気候の特徴は、暖流と偏西風の影響を受けるため、高緯度のわりに冬でも温暖で、特に降水量の年較差が小さいことである。また、D国は、ギリシャである。ギリシャは地中海に面しているため、気候は温帯の地中海性気候に属する。地中海性気候の特徴は、夏に乾燥して、冬の降水量が比較的多いことであるため、夏は、乾燥する気候に強いオリーブ、ぶどう、オレンジなどの果実を栽培する地中海式農業がさかんに行われている。

(3)山東省は、華北地方に位置し、中国東部の海に面した地域であるため、農業では小麦の生産がさかん、工業や経済が比較的発達した地域であると考えることができる。したがって、4表では、小麦の生産量が多く、人口密度の最も高いウが当てはまる。甘肅省は、西北地方に位置し、内陸部であるため、農業では米や小麦の生産量が少なく、遊牧などを中心に畜産がさかん、工業や経済の発達が遅れている地域であると考えられる。したがって、4表では、米と小麦の生産量が少なく、人口密度の最も低いイが当てはまる。残ったAが、華南地方に位置し、米の生産がさかんな湖南省である。

(4)5表は、大豆と石炭の生産量、輸出量、輸入量を示している。大豆は、1位のアメリカ合衆国、2位のブラジル、3位のアルゼンチンで、世界全体の生産量の8割程度を占めていることが大きな特徴であるため、イであることがわかる。石炭は、生産量と輸出量の上にインドネシアが入ることが特徴であるため、Aであることがわかる。また、輸出量と輸入量に関しては、大豆は、生産量上位国がそのまま輸出量上位国であるが、石炭の場合は、生産量上位3か国以内で輸出量も上位3か国以内なのはインドネシアのみである。したがって、Xが輸出量を示しており、Yが輸入量を示していることになる。

3. 「加盟国の増加にともなって生じているEU〔ヨーロッパ連合〕の課題」を書くという問題。ただし、問題文に「6図から2000年以降の加盟国にみられる特徴を、2000年以前の加盟国と比較して読み取り、その特徴をふまえて」とあるので、この条件をきちんと守ることがポイントである。2000年以降の加盟国は、一人当たりの国内総生産が300(百ドル)以下の国がほとんどで、大部分が400(百ドル)を超えている2000年以前の加盟国と比較すると、低いことが読み取れる。一人当たりの国内総生産は、経済的な発展度合いを判断する指標の一つなので、2000年以前に加盟したヨーロッパ西部の経済的に豊かな国と、2000年以降に加盟した東部の経済的に貧しい国との格差が大きな課題となっている。一人当たりの国内総生産は、最も

高い国と最も低い国で10倍以上の開きがある。

P.8 ②<解答例>

1. (1) 本初子午線 G 東経150度 B
(2) ② E ③ A (3) 暖流と寒流がぶつかる海域だから。 2. ユーラシア大陸 A オーストラリア大陸 U 3. E 4. (1) 語 パンパ 記号 A (2) 石油などの限りある資源の使用を減らすことができる点。地球温暖化や酸性雨などの原因となる物質の増加をおさえることができる点。 (3) インド オ ブラジル I

<解説>

1. (1)本初子午線はイギリスのロンドンを通過する経線なので、Gである。また、1図は、地球を12本の経線で区分しているの、 $360 \div 12 = 30$ となり、経線から経線の間隔は30度であることがわかる。したがって、東経150度は本初子午線から東に5本目ということになるので、Bであることがわかる。ただし、1図の左端の経線と右端の経線は同一の経線であることに注意する必要がある。

(2)問題文中の「6月21日」より、北半球は夏で、夏至のころであると判断できる。したがって、北極圏に近い③は、1日中太陽が沈まずに薄明るい状態が続く白夜に近いことが予想され、昼間の時間が非常に長いAであると判断する。②は南半球の都市であり、北半球と季節が逆になるため、昼間の時間が最も短いEである。

(3)→は赤道から極に向かって流れているため暖流、⇐は極から赤道に向かって流れているため寒流である。暖流と寒流がぶつかる潮目〔潮境〕は、海流がぶつかることによって上昇流が起こり、海底に沈殿した栄養分が上昇しやすくなるため、プランクトンが豊富で好漁場となる場合が多い。日本の場合は、日本海流〔黒潮〕と千島海流〔親潮〕がぶつかる三陸海岸沖の潮目が有名である。ここでは、「二つの海流の性質の違いにふれて」とあるので、「暖流」と「寒流」の語を解答にふくめる必要がある。

2. まず、冷帯〔亜寒帯〕が北半球にしか分布しないことを覚えておく必要がある。このことから、ユーラシア大陸はAであることが判断できる。また、オーストラリア大陸は「乾燥大陸」とよばれ、内陸部は乾燥した気候で砂漠が広がっていることを覚えていれば、乾燥帯の割合が大きいUであることも容易に判断できる。Iは、熱帯の割合が非常に大きいので南アメリカ大陸、残ったEがアフリカ大陸に当たる。

3. 問題文の通り、地熱発電は、「主に火山の周辺で発生する地熱や熱水を利用して行われている」ので、火山活動が活発な地域でさかんでいることが予想できる。火山活動が活発な地域

は、造山帯にふくまれる地域であるため、アルプス・ヒマラヤ造山帯に属するEのインドネシアが上位に位置すると判断する。

4. (1)パンパは、主にアルゼンチンを流れるラプラタ川下流域に広がる温帯草原のことである。また、6図で示されたアンデス山脈周辺の伝統的な土地利用については、標高2500m付近まで(Uの範囲)ではかんきつ類・熱帯作物、標高3000m付近まで(Iの範囲)ではとうもろこし、さらに標高が高くなると低温でも育つジャガイモが栽培されている。標高4000mをこえる地域(Aの範囲)では作物が育たないため、寒さに強いリャマやアルパカなどの家畜が放牧されている。リャマは山岳地域での荷物の運搬に使用されるほか、毛や皮は衣服などにも利用され、アルパカの毛は上質で暖かい衣類の材料として用いられる。

(2)バイオ燃料〔バイオエタノール〕は、とうもろこしやさとうきびなどの植物を発酵させてつくったアルコール燃料をガソリンと混合させて利用したり、ガソリンの代わりに燃料として使用したりするものである。石油に代表される化石燃料の使用を抑制することができる点や、植物が生長段階で光合成を行って二酸化炭素を固定しているため、燃料として燃焼させた際に二酸化炭素を発生させたととしても総量としての二酸化炭素が増加しない点が利点とされている。ただし、バイオ燃料の需要が増加することによって、農産物価格が高騰するなどの問題点もある。

(3)7図の項目で判断しやすいものに着目して、比較的判別しやすいものから決めていくとよい。まず、人口密度について、Eの339人/km²が日本であることがわかり、Aは人口密度が極端に小さいので、人口が非常に少ないか、面積が非常に広い、あるいはその両方の特徴をもった国であることがわかる。これに該当するのは、世界一の国土面積を持つロシア連邦である。次に、国土面積に占める森林の割合に着目すると、Iが58.0%と日本に次いで割合が大きいことがわかる。これは、アマゾン川流域に広がる熱帯雨林によるものと気づけば、Iはブラジルであると判断できる。最後にUとOの選択となるが、インドと中国の人口はどちらも約14億人で大きな差はない。ところが、中国は世界第4位の広大な国土を持つため、人口密度は小さくなる。したがって、Uが中国、Oがインドであると判断できる。都市に住む人口の割合は、やや使いにくい項目なので触れなくても解答は可能である。また、14歳以下の人口の割合は、一般に先進工業国では小さく、発展途上国では大きくなりやすい。さらに、国土面積に占める農地の割合は、これとは逆の特徴を示すことが多い。

P.10 ③<解答例>

1. (1) a イスラム(教) b ア (2) 時差 15(時間) 経線 エ (3) ア A ウ C
2. (1) アパルトヘイト (2) 記号 ウ 経済モノカルチャー(経済) (3) マリでは、民族それぞれの言語があり、民族間で共通の言語が必要なため。(4) 米の収穫面積はあまり変化していないが、米の生産量が大きく増加していることから、米の生産性が大きく向上したと考えられる。

<解説>

1. (1) で示された国々は、北アフリカ・西アジア・中央アジアを中心に分布している。これらの地域のほとんどの国々は、イスラム教を信仰する人々が多い。bについては、問題文の「東南アジアに位置する」から判断する。イサウジアラビアは西アジアに、ウバングラデシュは南アジアに位置する国である。
- (2)ある都市の現地時間が11月11日午後7時〔19時〕、日本が11月12日午前10時〔11月11日34時〕なので、時差は $34 - 19 = 15$ で15時間である。経度15度ごとに1時間の時差が生じるので、 $15 \times 15 = 225$ で経度差は225度とわかる。日本の標準時子午線は東経135度の経線に設定されているので、 $225 - 135 = 90$ で、ある都市は西経90度の経線上に位置する都市であることがわかる。1図は、イギリスのロンドンを通過する経度0度の本初子午線から、ニュージーランドのすぐ東を通過する経度180度の日付変更線までに6本の経線が引かれているので、 $180 \div 6 = 30$ で経線が30度間隔で引かれていることがわかる。したがって、西経90度は、本初子午線のAから西側に3本目の経線エであることがわかる。ただし、1図の左端と右端の経線は同じ経線であることに注意する。
- (3)小麦は、現在世界で最も広く栽培されている穀物で、生育期間の約4か月は平均気温 14°C を必要とし、年降水量 $500 \sim 750\text{mm}$ が最も栽培に適している。稲と比較すると、生育期間の平均気温で $3 \sim 4^{\circ}\text{C}$ 低く、年降水量が半分程度の気候でも栽培が可能なので、温帯だけでなく、冷帯の半乾燥地帯でも生産が可能である。ここでは、2図に九州地方の小麦の栽培時期が示しているので、それを参考にして考える。1図のAはフランスで気候帯は温帯、Bはインドで主な気候帯は熱帯・乾燥帯・温帯、Cはオーストラリアで南半球に位置している。Aは、九州地方と栽培時期が重なっているが、栽培時期が九州地方より長いので、温帯西岸海洋性気候が中心のフランス、ウは、栽培時期が九州地方と完全にずれているので、南半球に位置していて日本と季節が逆のオーストラリアであると判断できる。

2. (1)3図のA国は南アフリカ共和国である。南アフリカ共和国では、人口の約18%を占めるにすぎない白人が、黒人やインド・マレー系住民に対して、政治・経済・社会のあらゆる分野で差別を行う人種隔離政策〔アパルトヘイト〕が行われてきた。1980年代後半から1991年にかけて、アパルトヘイトを支えてきた各種法律が廃止され、1994年には初の黒人大統領が誕生した。現在は、アフリカで最も経済的に発展した国となっている。

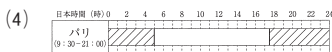
(2)ナイジェリアの輸出額の82.3%を占めていることから原油であると判断できる。ナイジェリアは、アフリカ最大の原油輸出国で、典型的な原油モノカルチャーの国である。ナイジェリアのように、特定の農産物や鉱産資源の生産と輸出にたよる経済をモノカルチャー経済とよぶ。農産物や鉱産資源の価格変動が大きいため、国の経済が不安定な場合が多い。

(3)「マリがかつての支配国の言語を現在も公用語として使用している理由」が問われている内容で、「資料5から読み取って」が条件である。熊本県の公立高校後期選抜では、論述問題における問いの内容を正確に把握し、与えられた条件や指定語句をふまえて的確に表現する力が要求される。この問題でも、覚えている知識を論述するのではなく、資料5を正しく読み取り、その分析から論理的に導くことが可能な内容が解答となる。資料5から、①マリは複数の民族で構成された国であること(50%を超える構成比の民族は存在しない)、②民族名と言語名が一致している場合が多いので、民族ごとに異なる言語を使用していること、の2点が読み取れる。ここから導き出される結論は、民族ごとに異なる言語を使用すると、同じマリ人であっても民族が異なると意思疎通が困難になることが予想されるため、民族に関わらず共通して理解可能な言語が必要だ、ということである。

(4)「2004年から2018年までの間にウガンダの米の生産がどのように変化したと考えられるか」が問われている内容で、「6表から読み取れることを根拠として」が条件である。6表から、①米の生産量は2004年から2018年でほぼ倍増していること、②米の収穫面積は2004年から2018年でほぼ横ばい(やや減少)であること、の2点が読み取れる。この2点はあくまで根拠とすべき内容なので、解答の結論部分には、ここから導くことができる「米の生産の変化」を論述する。収穫面積が大きく変化していないにも関わらず、収穫量が倍増しているということは、生産性が向上したということの意味している。

P.12 ④<解答例>

1. (1) a ア b ヒマラヤ(山脈)
- (2) ハリケーン (3) B エ E ウ



2. (1) 経済特区 (2) 15歳から64歳までの人口が減少することが予測されるので、労働力が不足することが考えられる。

<解説>

1. (1) Xの都市名を覚えておく必要はないが、季節風の季節による風向を理解しておく必要がある。南アジアや東南アジアでは、夏に海から吹いてくる湿った季節風が雨を降らせ、冬は内陸から吹いてくる乾いた風が降水量を減らす傾向が強い。Xはインドを含む南アジアに位置する都市なので、夏はインド洋から吹きこむ湿った季節風が、ヒマラヤ山脈にぶつかり、大量の雨を降らせることが判断できる。

(2) 2図は北アメリカ、中央アメリカと南アメリカの一部を示した地図である。この地域で、おもに8月から10月にかけて、カリブ海やメキシコ湾で空気が温められることが原因で発生する熱帯低気圧をハリケーンという。台風と似た現象であるが、台風は経度180度の日付変更線より西側で発生する熱帯低気圧のうち、最大風速が約17m/sになったもの、ハリケーンは日付変更線より東側で発生する熱帯低気圧のうち、最大風速が約33m/sになったものである。

(3) 3図のアはスウェーデン、イはイギリス、ウはドイツ、エはポーランド、オはイタリア、カはギリシャを示している。国の数が多く、あまりなじみのない国が含まれているため判断が難しいが、このような形式の問題の解法の原則に従って、判断が容易なものから決めていくとよい。まず、4表のAとBは、一人あたりの国民総所得が低いという特徴がある。ヨーロッパ連合〔EU〕の課題の一つは、西側に位置する国々と東側に位置する国々の経済格差が大きいことである。したがって、東ヨーロッパに位置するポーランドが、AかBに当てはまると考えられる。ここで、主な宗教と人口に占める割合に着目すると、Aは正教会が90%、Bはカトリックが89%となっている。正教会は東ヨーロッパの国々で信者が多い宗派だが、歴史的には、ローマ・カトリック教会とのキリスト教の正統をめぐる対立の中で、ギリシャ正教会として成立したものが始まりである。したがって、Aがギリシャ、Bがポーランドと決めることができる。Cはカトリックが83%なので、イタリアに当たる。カトリックの信者が多い国は、イタリア・スペイン・フランスなどである。D・E・Fは一人あたりの国民総所得が高いという特徴があるので、スウェーデン・イギリス・ドイツのいずれか。Dは国土面積に占める森林の割合が大きいので、国土の大部分が冷帯〔亜寒帯〕に属

するスウェーデンだと判断する。冷帯に属する地域では、ロシアやカナダに代表されるように、針葉樹の森林が広がっている。残ったイギリスとドイツの判断だが、Eはカトリックとプロテスタントがほぼ同じ割合、Fはプロテスタントが72%を占める点に着目する。ドイツは、宗教改革を始めたルターの出身地なのでプロテスタントが多いと考えがちだが、宗教改革以前はほぼカトリックの信者で占められていた。現在は、南部を中心にカトリックの信者が多く、北部を中心にプロテスタントの信者が多くなっている。つまり、Eはドイツを、Fはイギリスを示しているということになる。

(4) パリは「東経15度を標準時の基準とする」とあるので、日本との時差は、 $(135 - 15) \div 15 = 8$ (時間) である。日本の方が8時間進んでいるので、パリの9:30は $9:30 + 8 = 17:30$ となり、日本時間の17:30に当たることがわかる。営業時間は11時間30分なので、パリの21:00は日本の5:00であるとわかる。

2. (1) 中国のチュー川〔珠江〕河口域に位置する、シェンチェン・アモイ・スワトウ・チューハイ・ハイナン島〔ハイナン省〕の5地域は、経済特区に指定されている。経済特区は、外国企業を招いて工業化するために、税金などについて特別な制度が設けられた地区のことである。

(2) 7図から、中国で急速に少子高齢化が進行していることが読み取れる。中国の年齢別人口構成の変化が、中国の製造業に与える影響として今後考えられることを答える問題なので、少子高齢化による15～64歳の人口〔生産年齢人口〕の減少が、労働力の不足を招くことを導き出せばよい。

P.14 5<解答例>

1. (1) 緯線 ウ 経線 Z (2) 記号 ③
 大洋名 太平洋 2. (1) 原油 C 石炭 A
 (2) オーストラリア ア マレーシア エ
 (3) ウ (4) 宗教名 ヒンドゥー(教) X イ
 (5) 都市の人口増加にともなって深刻な交通渋滞がおきているから。

<解説>

1. (1) 1図は、問題文にある通り、南極点を中心に世界の一部を示した地図である。南極点を中心とする同心円の中で、太く表示されているものが赤道で、赤道は0度の緯線である。ここから中心に向かって2つの円が描かれており、中心の南極点が南緯90度なので、 $90 \div 3 = 30$ 度間隔で緯線が引かれていることになる。また、ニュージーランドのすぐそばを通過するXの経線が、経度180度を基準に設定されている日付変更線で、南極点をはさんで反対側の経線が0

度の本初子午線である。0度から180度までが9本の経線で表示されているので、1本分の間隔は、 $180 \div 9 = 20$ 度である。したがって、東経140度を示すZの経線が、日本列島を通過しているとわかる。東経140度の経線は、日本の秋田県八郎潟付近や千葉県房総半島を通過する経線である。

(2)サンゴ礁が見られる海域なので、オーストラリア大陸の北東岸に広がるグレートバリアリーフ^{だいほしりょう}を示している③が当てはまる。オーストラリア大陸が面している大洋なので、太平洋である。①は大西洋に面しており、②は太平洋に面している。

2. (1)日本の輸入上位3か国なので、まず、西アジア諸国が上位3か国すべてを占めているCが原油であるとわかる。原油の生産では、アメリカ合衆国やロシア連邦も上位国だが、日本の場合、輸入のほとんどを西アジアの産油国に頼っている。また、生産国・輸出国ともにインドネシアが上位に位置する資源が石炭なので、Aであると判断する。残ったBは天然ガスである。

(2)定石通り、判断が容易なものから決めていくとよい。まず、アとイは人口密度が非常に小さい。これは、人口が非常に少ないか、面積が非常に大きいのか、その両方であることを意味している。したがって、オーストラリアかロシアである。アの3人/km²という特徴的な人口密度を覚えている受験生も多いだろうが、森林面積率を比較すると、イがアの3倍近い割合になっている。これは、国土の3分の2以上が乾燥帯の気候に属し、「乾燥大陸」ともよばれるオーストラリアが小さく、国土の大部分が冷帯〔亜寒帯〕の気候に属するロシアは、針葉樹林帯のタイガなどが広がっているため大きくなると考えることができる。したがって、アがオーストラリアで、イがロシアである。次に、ウとエの比較だが、ウの国土面積に占める森林面積率が0.5%と極めて低いことに気付く。ここから、国土の大半が乾燥帯砂漠気候に属するサウジアラビアであると判断できる。エの森林面積率が高いのは、マレーシアが熱帯の気候に属し、熱帯雨林〔熱帯林〕が広がっているからだと考えることができる。

(3)ア地中海沿岸の地域の説明。イアンデス山脈のある標高が高い地域の説明。ウシベリヤのように冷帯の気候に属し、寒さが厳しい地域の説明。エアボリジニはオーストラリアの先住民である。

(4)信者の割合が多い主な地域がインドなので、にはヒンドゥー（教）が当てはまる。ヒンドゥー教は、分布地域がインドに限定されるため、三大宗教ではなく、民族宗教に当たる。ただし、インドは約14億人の人口を抱え、その

8割以上がヒンドゥー教を信仰していると言われているので、宗教別人口では仏教徒よりも多い。また、Xには、イスラム教を示した写真を選択しなければならないので、イである。イは、イスラム教徒が聖地の方向に向かって祈りをささげているようすである。アはヒンドゥー教徒が聖なる川とされるガンジス川で身を清める〔沐浴^{もくよく}〕ようす、ウはキリスト教徒が教会で祈りをささげているようすである。

(5)インドネシアの首都はジャカルタである（2024年3月現在の首都で、2024年前半には首都移転を宣言して移転が始まり、2045年に移転が完了する予定となっている。ジャカルタはジャワ島に位置する都市だが、新しい首都はボルネオ島〔カリマンタン島〕に移り、首都名は「ヌサンタラ」である）。インドネシアは世界第4位の人口（2023年で約2.8億人）を抱える国で、1万以上とも言われる島々を有する国だが、人口の大半はジャワ島に集中している。この過密状態を解消し、人口と経済的な発展を国全体で可能な限り均一化しようということで、首都の移転が提案されて承認された。また、近年は、地盤沈下（一部では年間数mとも言われる）をはじめとした環境の悪化や、世界一とも称される交通渋滞などが問題となっていた。首都を移転することで、過密や環境悪化・交通渋滞の解消が期待されており、移転先の約25万ヘクタールの土地を切り開き、最新の技術を駆使したスマートシティを建設する計画である。ただし、移転先の森林地帯は、野生のオランウータンの生息地となっており、新たな環境問題の発生を懸念する声もある。今回は、「鉄道を建設する理由」を問われており、「資料5と6図から読み取れることをもとに」するように指示があるので、資料5から交通渋滞、6図から今後が増え続けると予想されている首都の人口を読み取ればよい。